

大学生チューターに聞く共通テスト対策！

【英語】

○共通テストの英語筆記は、センターにあった発音アクセントや文法問題などが無くなって、長文読解ばかり出題され、戸惑っている人も多いのではないのでしょうか。でも発想を変えれば、長文対策に専念できるので、ある意味勉強しやすいかもかもしれません。また共通テスト後に受験することになる私大の入試問題で一番差がつくのも長文なので、今からしっかりと長文に慣れておくと一石二鳥です。共通テストの英語筆記はズバリ慣れです。たくさんの英文に触れるのが、一番の近道です。自分の志望大学は早稲田で、長文が難しいので、明治・立教など良問の長文を読んで練習しました。センターの過去問を練習するのもいいです。長文を練習する際、知らない単語や熟語をついでに覚えるとどんどん英語が得意になります。（72期 早稲田大学 I. R君）



○共通テストの英語筆記は長文ばかりなので、慣れていくしかありません。逆に言うと慣れれば、高得点が狙えます。これからの季節、英語は徐々に長文の問題に比重を移して行ってください。時間を計って、時間内に読める練習をするのも効果的です。（72期 青山学院大学 S. K君）

○大問3位までは、下手に日本語に戻して理解しない。問いを見て、どのような要素に目を向けるのかを意識。大問4以降文章が長くなってきてからは、早く読める人は問いを確認しつつざっと読む。傍線などあるような部分の前後は要チェック。速さに自信がない人は問いを確認しつつ、時間・感情・固有名詞・段落の最初の接続詞（ディスコースマーカー）を中心に読む意識を持つ。単語がどれだけ生きた形で覚えられているかが鍵。単語1語でなく、使われ方まで目を向ける。（73期 お茶の水女子大学 E. Mさん）

【国語】

○形式はほとんどセンター試験と変わらない印象です。センターの過去問を現代文・古文・漢文で5～10分あまるくらいに時間配分を考え、実践形式で解いていくのが、効果的です。古文は単語・文法・古典常識、漢文は句型・音読と単語が土台になります。文章は一行一行読むのではなく、段落ごと、さらに段落のつながり、つまりは全体の構造を意識しましょう。

現代文は答え合わせのプロセスが大切。「なぜこれが間違っているのか」「どうしてこれが正解なのか」「答えの根拠はどこにあるのか」をしっかりと理解することで力がつきます。納得できないことは先生に質問しましょう。

（72期 早稲田大学 I. Eさん）

○共通テスト評論の解き方

①問題の種類を見分ける

「～はどういうことか」「～の具体例はどれか」などその問いが一体何を聞いているのかを正確にとらえることで、選択肢を見る前に自分で解答を導く手助けになる。

②対比・筆者の主張をみつける

筆者が肯定していることがわかれば、文章が一気に読みやすくなる。「日本⇄西欧」「自

然⇄都市」など慣れてくるとテンプレートがわかるようになってくる。

③傍線部を分析する

選択肢ばかりをみて、傍線部を流し読みしてしまう人が多いが、傍線が最も答えに近い部分である。その対比、肯定or否定を見分けるだけでも意味がある。

④選択肢を分析する

選択肢は、全体的に見るだけではダメ。しっかりと節で分けて、誤答になる箇所が無いか考える。一つでも違うところがあれば、他の箇所が完璧でもその選択肢は正解ではない。文章中の言葉（形容詞・副詞＝「～的」「～な」など）がどう言い換えられているかをチェックする。

⑤図・グラフの分析

共通テストの場合、図やグラフがあるので、そこから対比がわかるようになっている。

⑥解く順番やタイミングには好みがあるが、どのような解き方でも上の5つの解き方は必要。他人に勧められた方法だけで無く、自分なりの解き方を紙に書いて確立することも大事。なんとなくではなく、しっかりと紙に書こう。その中に上の5つを組み込もう！

（72期 早稲田大学 I. R君）

○古文でまず大事なものは、基本三本柱「単語・文法・古文常識(文学史を含む)」共通テストは短い時間で確実に点を取らなければいけない。ただ何となく文章を読んでいてはダメ！

○漢文は古文に似ていて、「単語・句法・漢文常識」が大事。一つでも多くの単語と句法をインプットしましょう。どちらも複数文章・資料が出てきますが、必ずリンクさせて読みましょう。見た目の量の多さに圧倒されるな。

漢詩でやって欲しいことは、①種類は何か？（五言絶句など）②押韻を見つける③対句を意識する。（73期 慶應義塾大学 K. H君）

【数学ⅠA・数学ⅡB】

○長い問題文に惑わされないでください。問われているのは、今まで皆さんが授業で学んできた内容です。おすすめは、まず数式の部分を先に見て、何を問っているのかを把握した上で、長い問題文を読むとスムーズです。共通テストで高得点を取るためには、共通テスト形式の問題に慣れる必要がありますが、問題演習をしっかりと行い、解法のパターンを身につけていきましょう。（72期 東京理科大学 F. M君）

○数学ⅠAの問題文が長い時は、問題の数値や条件が書かれている文なのか、ただの導入で問題を解く上であまり関係のないものなのかを見極めなければならない。

数学ⅡBは、センターの過去問演習でカバーできる分野が多いが、グラフが多くグラフの性質を理解して欲しい。

数列の問題は、問題の意味を理解して立式することが大事。共通テスト本番では、とても緊張するはずだ。その中で、問題文の意味をしっかりと読み取るには、問題文の大事なところに線を引いたり、問題文を2回読むのもおすすめである。

共通テスト数学の攻略法をまとめると、

①文章を読んで、それを自分の知っている公式などに落とし込めるのが、勝負のカギ！

②共通テスト予想問題等で共通テスト形式に慣れる。

③解法の暗記のみでは点が取れないので、解法をを理解することが大事。

④ で囲まれているところはとても大事なところだから、よく読もう。

⑤問題文の誘導にしっかりと従うこと。（72期 明治大学 Y. R君）

○共通テスト数学に必要な力は高い数学力よりも求めなければならないことを自分の知っ



ている公式を使って、忠実に解く力です。数学の対策でチャートをやる人が多いと思いますが、共通テストの勉強なら4プロセスで充分です。4プロセスレベルの問題集で基礎レベルの問題を完璧にしていれば、あとは誘導に従うだけです。それと文章が長い問題に惑わされそうですが、実はやるべき事が単純だったりするので、4プロ→共通テストの問題演習で得点が安定してきます。4プロセスレベルを完璧にして、あとはひたすら演習しましょう。（73期 電気通信大学 S.R君）

○解くために必要な公式は、学校で習ったものばかりなので、今持っている知識と問題の誘導を結びつける練習をする。（74期 東京都立大学 H.H君）

【世界史B】

○グラフ問題はセンター試験の過去問にも出題されているので、過去問演習が効果的です。基本的に世界史の教科書の知識で解ける問題が多いです。歴史の資料を読み解く問題も出題されますが、キーワードをチェックして考えれば、難しくありません。

資料集などの表を利用して歴史の流れを覚えたり、一つの国や地域の歴史の流れを覚えた上で、ヨコの歴史にも注目して勉強すると良いと思います。教科書に載っている地名を教科書の地図で確認してください。特に民族の移動や征服の方向、勢力の拡大などの人の流れは頭に入れておく。

まず試験本番に、初見の資料が出たとしても、絶対にあせらないようにする。初見の資料でも、文章や図の中に必ずわかる部分があるので、その部分を頼りに解く。対策としては、一つの出来事について、一問一答のような形で覚えるのではなく、その出来事に関する情報（地域・年代・人物名・民族・地名など）をいかに多く覚えられるかが重要です。（72期 埼玉大学 F. Kさん）



【日本史B】

○共通テストは、知識と流れが頭に入っていれば、どの問題も解けます。年号をひたすら覚えるのはやめましょう。流れが大事！ある事件が何故起こり、その結果どんな影響を与えたのか、この因果関係が大事だからです。流れをつかんでいけば、「古い順に並び替えよ」といった時代順を問う問題をスムーズに解くことができます。

資料は多いですが、大きく2つパターンがあります。

①初見史料→有名ではない史料と言うこと。したがって、よく読んで選択肢を見比べること。

②ある史料→有名で教科書・資料集・入試問題によく出ると言うこと。内容をあらかじめつかんで、覚えておきましょう。そうすれば、次第の空所補充対策も同時にできます。内容をつかんでいけば、選択肢を見比べるのに時間を使えて、時間短縮にもつながる。

③解く時のコツは、先に選択肢を読む！史料は長いし、いきなり読んでもピンと来ないから、選択肢を読んで大まかな内容をつかむ。

（日本史世界史に共通ですが）、文化史や戦後史も甘く見ないで対策を取りましょう！ただの暗記ではなく理解する科目。一問一答だけやっても入試では勝てません。

（73期 慶應義塾大学 K. H君）

【物理】

○頑張っただけで演習して、できなかったところは解説を読み、しっかり理解したつもりなのに

なかなか伸びないと思っている人は多いと思います。自分のできるレベルの問題で、実際に手と頭を動かして解く練習からやり直しましょう。力学の基礎を固めると得点が安定すると思います。電磁気の問題は典型的な設問が多いので、頻出問題を中心に確実に解くことができる力を付けましょう。そこから類題に手を広げると良いと思います。（71期 東京工業大学 A. T君）

【化学】

○共テ・センターの過去問を解く場合は、表現文字数の多い問題を選んで解いたり、図・グラフ問題や計算を必要とする問題を選んで解くと良いと思います。（71期 東京工業大学 A. T君）

【全般】

○共通テストの形式に慣れるために、予想問題を積極的に解いたり、問題文の分量が増えた教科書は、特に時間を意識して取り組む。共通テスト模試はまさに予想問題なので、必ず受けるとよいと思います。（74期 全チューター一同）

○入試本番まで、不合格になるのではと心配し続けた自分をふるい立たせたのは、毎日勉強し続けた事実でした。今までの積み重ねは絶対にムダではありません。応援しています。（74期 早稲田大学 . K.Mさん）

○成績が伸びない人へ。

悩んでも時間のムダです。合格するために何を勉強すれば良いかをよく考えて、それを紙に書き出して一つ一つやりましょう。（70期 千葉大学 I. N君）



共テ対策と記述対策それぞれ高い精度で行おう！

（2022年蛭雪時代12月号より抜粋・蛭雪アドバイザー 堀 浩司先生）

共通テスト対策と記述対策は別物と考えがちですが、両者の対策は、7割は重なっています。記述対策をすることで、マーク式問題の正しい選択肢を見極める眼力が磨かれます。同じように、マーク式問題の対策を高い精度で行うことで、記述式の問題を解答するときの記述力向上にもつながります。マーク式の問題を解くときでも、感覚的に選択肢を選ぶのではなく、論理的にひとつひとつの選択肢を検討することが記述対策にもつながるので、ここで説明したことは、科目の文理を問わず当てはまります。例えば数学のマーク式問題では、誘導に乗って問題を解きますが、記述問題にしっかり取り組めば、誘導の過程を自ら考える練習になります。そのためマーク式問題を解くときに、「こういう方向に答えを持って行きたいのだな」と誘導の意図をつかむことができるのです。ただ数学などでは、数学的な事象を無理矢理日常生活に結びつけた設定の問題が登場します。そうした問題は記述対策と異なるので、事前に共テ向けのトレーニングをしないと本番で対応できません。こうした共テ独自の特徴はテクニックの問題で、しっかりトレーニングして慣れておくことが大事です。

記述についてもマーク問題で正しい選択肢を選ぶことが出来たとしても、記述対策用の練習をしなければ、正しい解答を書くことは出来ません。

教科への理解の部分では、共テ対策と記述テスト対策に大きな違いはありません。両者に共通する実力が身に付いていれば、共テや私大・国公立2次試験で多少の傾向の変化があっても対応できます。

→規則正しい生活を送り、健康を維持することも大事な受験勉強のひとつです。最後までベストを尽くせるように、みんなで頑張りましょう！

